

多久都市計画公園（中央公園）の都市計画の変更に関する原案の説明会と公聴会を開催します

多久都市計画公園（中央公園）の都市計画の変更に関する原案を、広くみなさんにお知らせするとともに、多くの人の意見を伺います。

■説明会

○日時 8月23日(水) 19時～
○場所 多久市中央公民館
視聴覚室

■計画原案の縦覧

この計画原案は、多久市役所都市計画課で縦覧できます。

■縦覧期間

8月23日(水)～9月6日(水)
8時30分～17時15分
(土・日を除く)

■公聴会

(公述申出書の提出があった場合のみ開催します)

○日時 9月13日(水) 19時～
○場所 中央公民館 視聴覚室

■公述申出書

この計画原案に、意見のある人は公述申出書を提出することができます。(様式は任意)住所・

氏名・年齢を明記の上、意見の趣旨とその理由を記載して提出してください。

〈提出方法〉 郵送、持参
〈提出期限〉 9月6日(水) 17時15分必着

※期間内に公述申出書の提出がない場合は、公聴会は開催しません

■提出先

都市計画課都市計画係
多久市北多久町大字小侍7-1



問い合わせ

都市計画課 ☎75-4827

KUSABA HAISEN

草場佩川

その8

没後150年記念行事

草場佩川の会

山行示同志

草場佩川

路入羊腸滑石苔
風従鞋底掃雲廻
登山恰似書生業
一步步高光景開

〔意訳〕

山路はくねくねと曲がり、苔の生えた石は滑らかで、風は足もとから雲をはらって吹きめぐる。山に登るのはちよつと、書生の学問修行と同じで、一步步高いところに登るにつれて新しい視界が開けてくるのである。

草場佩川は、生涯で二万首を超える漢詩や多くの文書を作りました。佩川は、一日に一首の漢詩を作ることを自らに課していました。

その漢詩の中でも、「山行示同志」は特に親しまれている有名な一首です。詩吟で詠われたり、漢文教材として取り上げられたりしており、ご存知の人も多いことでしょう。この詩は、登山を勉学にたとえ、門人を戒めたものと言われています。一步步苦勞して登る道のりと共に開け行く視界を、学業を重ねることによって広がる知見と掛けて詠んだものです。

没後百五十年にあたり、文教の里、多久の子ども達にも、ぜひ触れてほしい漢詩の一つです。

(文責 松尾久二)



聖廟にある「山行示同志」の石碑

問い合わせ

草場佩川の会 桑原峰俊 ☎75-6824